



*年度替わりの、落ち着かない日々でしたが、集まって話すことで、次へと気持ちが動きます。4月15日に話したことの一部を紹介します。

・新学期始業式の朝、たまたま小学校の前を通りかかると、校長先生の話がきくとはなしにきこえてきました。

「皆さんにお話があります。新学期に約束してほしいこと。やる気、根気、元気が大切であること。何事にもやる気が大事。それを続ける根気。そして元気も、、、」きいていて気持ちがざわざわしてきました。やる気もなく、根気もなく、元気もなかったら、ダメなのでしょうか？もっともと言われている気がしました。話をきいて、しんどくなった子はいないのかな。

・今、何十年も経っているのに、まだあることに驚いた。自分も小学校の入学式で、校長先生から同じようなことをきいた。多分「本気、元気、根気」と思う。「いったいどんな木なんだろう？」と思った印象があるのでよく覚えている。そのことが足かせになったわけではないけれど、おとなになってからも違和感を感じている。

・娘が低学年の時、運動会の練習中、「汗をかく子が、頑張っている子。汗をかくまで頑張りなさい」と担任からの声かけがあったそうです。帰宅してひどく落ち込み「頑張ってるのに、汗

かけへんねん」と言って泣いてました。

・私のお稽古に付きあってくれていた子どもが、主催者の一方的な思いで並ばされて反発。子どもの表現は、私に甘えて泣くでしたが、させられることがいやだとの気持ちが伝わってきましたので、連れていくのはやめました。

・あかちゃんが動き始めると、もう少し頑張れ～と物を少し遠くへずらしたり、もう少しで取れそうなのにバックさせられる光景に胸が痛い思いがします。あかちゃんに代わって「やめて、辛い」と伝え続けたいです。

・チラシをつくる時に「子供」を供えるではなく、「子ども」にしませんかと伝えたら、そんな意味があるのねと受け止める人、そんな細かいこと気にする？などいろいろでした。私たちのあたりまえが、ちがう場ではレアなことになります。

・自分と話が通じ合わないと感じると、対立の構図にはしたくなくて、聴けない、しんどいなと感じて黙ったり、どうしたらいいかわからない時がある。

*自分が主体的に参加できないと、思いそのものは根付かない気がする。こども基本法は子どもの権利条約に基づいてつくられている。使うのは自分たちのための気持ちは持っておきたいな。

2023.4.29 八幡屋公園自然教室に参加しました～

公園で、草花で遊ぶイメージがなかったのが新鮮でした。これから、もっと遊びが広がると思いました。

五感を研ぎ澄まして感じる…。
目をつぶると、いろんな音が聞こえたり、気配を感じたり、精神統一したようなスッキリした感覚になりました。見えるものとしては「人間が作れるもの・作れないもの」を分けて見ることを考えました。写真を撮ると、人間が作った看板や構造物が目立って、あとから見ると残念な気持ちになりました。また、不思議なことも沢山教えてもらいました。桜の葉っぱには二つの突起があって人間にはわからないような甘い蜜が虫を引き寄せていること、オオバコの葉の繊維が糸のように出ていること、新聞紙の上で座ると直に地面の感触を味わえるなど発見や驚きがいっぱいでした。みんなで寝転んだら「地球をおんぶしているんですよ」の声かけ。はじめ何のこと？と思いましたが、実際寝転ぶと「なるほどな～おんぶね」と笑ってしまいました。

ニワホコリ →
「庭にほこりほどいっぱいある」という意味に、なるほど、面白いなあと感じました。



学習会のお誘い 「子どもが会おうおとな」が考える

～ 平和の取り組みって？ ～

日 時： 7月1日（土）／7月8日（土） 両日とも10時～11時半
場 所： 1日は、つどいの広場シュッポポすみよし

大阪市住吉区清水丘2-4-7-101

8日は、つどいの広場シュッポポ

大阪市西区南堀江4-24-5

対 象： どなたでも 申し込みは各2日前まで、Zoom参加可能です。

公益社団法人子ども情報研究センター 「共同子育て連絡会」

メール：renraku@kojoiken.jp 合田由紀子 南田安紀子

電話：06-4708-7087 住所：大阪市港区波除4-1-37 HRCビル5階

「子どものけんり なんてやねん！すごろく」 まずは、おとながやってみて、
考えて、話してみようの会で出されたこと・・・そして・・・そこから

3月25日（土）参加者おとな6人
* なんてやねん！を減らすには?! を
テーマにして意見交換しました。

- ・決めつけない
- ・月に1回、このすごろくをやる
- ・自分たちでルールをつくる（誰かが決めたものでなくて）
- ・「できない」「手伝って」って言うように
- ・効率の良さばかり求めない
- ・一方的に決めつけない（先入観など）
- ・相手の気持ちに立ってみる
- ・相手の気持ちをきいてから決める
- ・相手も自分も尊重する（自己犠牲やがまんも×）
- ・子どもには子どもの気持ちがあることをわかって
- ・おとなにも余裕のある社会
- ・受け入れてそれを行動にまでうつせるおとなたち
- ・なんてやねんすごろくをしないと先生になれない
- ・保育園 先生の数をもっと多く
- ・男と女、第1子2子だからとわけない
- ・授業の中に子どもの権利条約の時間を開設する
- ・校則は時代にに応じて子どもとともに変えていい
- ・1人になれる場所は個室でなくてもスペースが仕切られたら1人になれる
- ・保健室は身体を休める手当をする場所、心を休める場所はある？

- ・安心して相談できる人、場所があれば
- ・子どももおとなもなんてやねんと思うことを声にする
- ・なんてやねんと思っていることに共感してもらおう
- ・社会に対する少数のなんてやねん！が尊重されること

すごろくの中で【施設でひとりになれる場所がない。おとなに相談しても「我慢して」と言われる。】という、なんてやねんカードがあり印象に残りました。

先日、3人の子どもとの暮らしの中で長女（小3）とお風呂に入ったときに、次のような話をしました。長女は「お母さんと二人きりになれる時間がないから、弟たちに聞いてほしくないことを話せない」「弟たちが遊んでるときに2人で話していても、こっちに来たら聞かれてしまう」と話してくれました。

長女自身のプライバシーを聞かれたくないからこんなことを言ったのかと思っていましたが、それだけではなかったことにビックリ。よく聞いていると、「母に相談事をしているのを弟たちが聞いて、自分の様に弟たちも悩んだらいけないし聞かれない方がいいかなと思って」と考えていたらしいのです。

自分の空間が欲しい、母と二人きりの時間が欲しい、という言葉を聞いただけではわからなかった、ここまで深く考えていた、考えられる様になっていたんだという驚きでした。（C）

子どもの権利条約カレンダー（労働教育センター発行）をめくっていると、2歳のAさんが寄ってきます。Aさんは宙返りを「ジャンプ」と、この写真がお気に入りの様でした。



次の日、椅子に乗って「ジャンプ」と、手を伸ばすAさん。前日の出来事を知らないおとなは、「椅子の上でジャンプするのはあぶないよ」と、言っちゃうのですが、違う違うわかってよと泣くAさん。この泣き方はどういうことだ？と、おとなは考え「カレンダーが見たい？」「うん」となりました。

子どもと過ごしていると、すぐにわかってあげられないことがあります。伝わらないから別のあそびをしようと離れる子、思いが通じないことを表現するな子など姿はいろいろです。子どもが伝えてみたいと思うおとなになりたいな、一緒に考えたいなと思います。

こんなこともありました。 すごろくの中で、「子どもには食べさせないおいしいおかしをおとなだけ夜に食べている」というなんてやねんカードを読んだ後に、「これはおとなのけんりやな」と、つぶやくBさん（5歳）。「子どものけんりなんてやねん！すごろく」を、もういちどやりたいと2回続きでやったときのこえでした。けんりということばを知り、40分程で自分のことばにしていることに驚きました。

今まで多くの方が、子どもの権利条約を広げようとさまざまな取り組みや、ツールを創り出してこられました。それでも、子どもの権利条約のことを知らない人の方が多い社会です。私たちは、子どもとやりとりしながら、子どもとおとなのパートナーシップ関係をつくっていくことが、おとなの責任として、子どもの権利条約を社会に浸透させることにつながると考えています。

自然教室の最後に、おとなは子どもと自然の間を取り持つメッセージになってくださいという言葉をもらいました。後日談です。公園で、4歳、1歳孫たちにシロツメクサとオオバコを紹介しました。シロツメクサを編んでみたり、オオバコの糸で相撲をしたり。ちょっとはメッセージになれたでしょうか。

ちなみに滑り台の下で誰にも踏まれずに大きく育ったオオバコは30cm以上で巨大でした！ドングリや松ぼっくりも落ちていて、ポットン落としを作ると人見知りの激しい一番小さい人が打ち解けてくれて、これも自然の力だなあと思いました。

